

【 水管理について・・・7月～8月 】

(1) 幼穂形成期～穂揃期・・・根の活力を保つ！！

稲の一生で最も水の必要な時期になります。根ぐされや下葉の枯れ上がりを防ぐため、こまめな間断灌水を行いましょう。

(2) 穂揃期～登熟期・・・水田の夜間温度を下げる努力を！！

出穂後20日間は米の肥大が旺盛な時期なので、土壌水分が不足しないよう間断灌水を行い、根の活力を保つために常時の灌水は避けてください。また、夜間に高温が続く場合は心白粒対策のため、夜間の用水のかけ流しを行ってください。

(3) 落水・・・早期落水をしない！！

早期落水は玄米の充実不足や、未熟粒、死米を増加させます。また、胴割れ粒や過乾燥の原因となり品質を低下させるため、落水は穂揃後25日頃（熟れ色の着き始め）を目安にしてください。

【 病害虫防除・・・穂いもち、紋枯病、カメムシ、ウンカ 】

○穂いもち防除

	薬剤名	10a 当り薬剤量	使用上の注意
粉剤	ブライ粉剤	3～4kg	穂ばらみ期～穂揃期 収穫7日前まで
液剤	ブライソアブル	1000倍 (薬剤 150 cc/水 150 l)	穂ばらみ期～穂揃期 収穫7日前まで

○紋枯病防除

	薬剤名	10a 当り薬剤量	使用上の注意
粉剤	バリシ粉剤	3～4kg	穂ばらみ期～出穂期 収穫 14 日前まで
粒剤	モガリット粒剤	3～4kg	出穂 2～3 週間前に灌水状態で使用 収穫 45 日前まで
液剤	バリシ液剤5	1000倍 (薬剤 150 cc/水 150 l)	穂ばらみ期～出穂期 収穫 14 日前まで

○稲こうじ防除

	薬剤名	10a 当り薬剤量	使用上の注意
粉剤	テクトボソ粉剤	4kg	穂ばらみ期 収穫 14 日前まで
液剤	ブライソアブル	1000倍 (薬剤 150 cc/水 150 l)	出穂 10 日前までに散布する 収穫7日前まで

○カメムシ防除

		薬剤名	10a 当り薬剤量	使用上の注意
粉剤	1 回目	ビ-ムトボソ粉剤 5DL (穂首いもち同時防除)	4kg	穂揃期を中心 収穫7日前まで
	2 回目	スーカ粉剤 DL	3kg	1 回目散布後 7～10 日後 収穫7日前まで
液剤	1 回目	ビ-ムイトボソブル (穂首いもち同時防除)	650 倍 (薬剤 230 cc/水 150 l)	穂揃期を中心 収穫 14 日前まで
		ダブルカットボソアブル (穂首いもち同時防除)	1000 倍 (薬剤 150 g/水 150 l)	穂揃期までに
	2 回目	スーカ液剤 10	1,000 倍 (薬剤 150 cc/水 150 l)	1 回目散布後 7～10 日後 収穫 7 日前まで

○フタオビコヤガ (イネアオムシ)・ウンカ・ツマグロヨコバイ防除

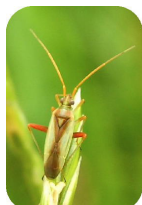
	薬剤名	10a 当り薬剤量	使用上の注意
粉剤	スタークル粉剤 DL	3kg	発生時随時防除 収穫7日前まで

※ハーブ米及びつや姫生産者の方は使用できる薬剤が限られますので、防除にあたっては稲作ごよみ又は、各支店営農生活課へご確認ください。

○斑点米の原因となるカメムシ類と葉を食害するフタオビコヤガ

カメムシ類は、水田周辺の雑草で増殖し、稲穂が出ると穂に集まり実を吸汁し、斑点米を発生させます。

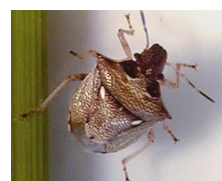
フタオビコヤガは幼虫が葉を食害し、葉にカスリ状の食痕が見られ、多発すると葉が食いつくされて中央の葉脈だけが残ります。



アカシガ カシミカ



ホソハリカメムシ



トゲシラホシカメムシ



フタオビコヤガ (イネアオムシ)